

【2023年10月3日】  
送付枚数 本票含め 5 枚

宛先： 文部科学記者会	御中	日経ビジネス	御中
科学新聞社	御中	ダイヤモンドオンライン	御中
山口県教育庁記者クラブ加盟各社	御中	大学ジャーナル	御中
宇部日報社	御中	大学通信	御中
株式会社山口経済レポート	御中	進研アド Between	御中
東洋経済新報社	御中		

## 件名：地質技術者の継続的教育・育成が高く評価され学会が異例の表彰 山口大学理学部 地球圏システム科学科

### 概要

各地域に最新の知見を身につけた優れた地質技術者が居ることは、地域の安全に直結します。山口大学理学部地球圏システム科学科は、若い学生の教育のみならず、社会人の地質技術者の継続教育まで網羅的に取り組んでいます。学生から社会人まで一貫した専門人材の育成は、地域の大学の新たな役割と言えるでしょう。

本学科の取り組みが認められ、「日本応用地質学会」から表彰されることになりましたので報告いたします。

### ポイント

- 1) 地質技術者は、災害対策、環境保全、インフラ建設・維持、資源開発、廃棄物対策などに携わる社会に必要不可欠な人材です。たとえ人口が減少しても、今後も一定数の人材を育成し続ける必要があります。
- 2) 本学科は社会から教育ニーズを聞き入れ、それを踏まえた高度な教育を行い、教育内容とその改善状況の厳格なチェックを受けています。そして第三者機関である日本技術者教育認定機構(JABEE) [1]によって世界基準の教育内容であると認められ、卒業生は国家資格「技術士補」が取得できます。
- 3) 2022年には本学科が全国で最も多くの学生・院生を専門職に輩出しました [2]。
- 4) 大学で初めて「土質・地質技術者生涯教育学習協議会」に加盟し、社会人技術者向けの講習会を2015年から開始しました。今では全国から300名以上の地質技術者が受講する(2023年度実績)、この分野最大級の社会人教育機関です。
- 5) 以上のように、本学科は若い学生からプロの社会人まで網羅した長期的な専門人材育成に取り組み、豊かで安全な社会の持続的発展に寄与しています。これは地域の大学の新たな役割と言えるでしょう。これらの活動が認められ、日本応用地質学会から表彰されることになりました(表彰式は2023年10月5日)。学術学会が教育内容について大学の学科を表彰する稀有な事例となります。

詳細については、別紙をご参照ください。

### 内容に関する問い合わせ先

山口大学大学院創成科学研究科地球科学分野  
担当者：坂口有人  
〒755-8611 山口県山口市吉田1677-1  
E-mail: arito@yamaguchi-u.ac.jp

**発信者** 国立大学法人山口大学総務企画部  
総務課広報室  
〒753-8511 山口市吉田1677-1  
TEL 083-933-5007  
FAX 083-933-5013  
E-mail sh011@yamaguchi-u.ac.jp

## 詳細

### 1. 地質技術者を育成する必要性

防災対策、災害復旧、構造物の建設、環境アセスメント、資源開発など地下利用に関する事業が地質の評価なしに進むことはありません。日本は今後人口が減少すると予測されていますが、道路や鉄道といった社会インフラが大きく減少する見込みはありません。社会インフラの維持管理には、一段と高い安全性が要求されるようになるでしょう。現代社会は、金属、エネルギー、プラスチック、肥料、希少元素などの地下資源を活用することで成り立っています。これらを開発し、利用し、そして廃棄する、どの段階においても地質の評価が欠かせません。そのため豊かで安全な社会を持続的に発展させていくうえで、地質技術者は必要不可欠の人材です。

日本列島は変動帯にあり、世界でも最も複雑な地質構造を有しているため、地質技術者には常に高度な判断が求められます。そのためAIによる代替や、海外事業者の参入が大規模に進むとは考えにくく、今後も国内で一定数の地質人材を育成し続けていく必要があります。

### 2. 本学科の特徴

本学科は入学定員 30 名の学科であり、野外でのフィールド教育が充実していることで特徴づけられます。本学科は、関係業界の代表者からなる「外部アドバイザー委員会」や、「西日本地質人材育成コンソーシアム」、「海底地質リスク評価研究会」などの産官学連携組織、そして地域の関係企業組織から、大学に対する教育ニーズを汲み取る仕組みを有しています。そして社会ニーズを踏まえつつ、日本学術会議の「大学教育の分野別質保証のための教育課程編成上の参照基準(地球惑星科学分野)」に準拠した、体系的なカリキュラムを構成し、これを着実に実行しています。その教育内容は常に改善し続けられており、その改善状況を外部からチェックする仕組みを内包しています。そして教育システム全体が JABEE によって厳格に審査されており、2022 年の継続審査ではオール S の最高評価と「全国の規範となる教育プログラムである」との講評を頂きました。

本学科の教育には多くの民間企業が賛同していただき、2022 年度には全国の 52 社の民間企業が本学科の教育を支援してくださいました [3]。学科に対する支援企業の数では、この分野では最大になります。これも本学科の教育が優れていることの証左と言えるでしょう。

### 3. 人材輩出状況

一般社団法人日本地質学会は、全国の大学で地質学を修得した学生が、どのような業界に進んだのかを調べるために毎年「地質系若手人材動向調査」を行っています。これによると全国で約 1,000 名程度の学生・院生が社会に巣立ちますが、そのうち専門職に就くのが約 1/3 程度となっています。本学科では、卒業・修了生のほとんどが専門職に就いており、専門職への就職者数の多い常連校に位置づけています。2022 年の調査では、地質技術者に絞ったランキングで一位、そして研究者や教員まで含めた総合ランキングでも一位となりました。本学科のような定員数の少ない学科が、実数で全国一位になるのは快挙と言えるでしょう。

### 4. 社会人教育

地質技術者は常に最新の知見を身に付けるように継続研鑽が義務付けられています。そのための講習会は都市部では多いのですが、地方では講習会の開催数が少ないという問題があります。そこで本学科は地質系技術者の研鑽教育の単位(CPD)を発行できるように「土質・地質技術者生涯教育学習協議会」に加盟しました。大学としてこの協議会への加盟は本学科が最初になります。2015 年から「山口大学地質講習会」を開始いたしました。当初は山口県内と西日本地域からの参加者が中心でしたが、新型コロナ禍を契機にオンライン講習会との併用を進めたところ、全国から参加者が急増し、今年の講習会では 300 名を超えました。そのほか「地質調査野外実習」や「技術士試験二次試験対策講習会」などプログラム内容も多彩になり、この分野最大級の社会人教育機関となりました。

### 5. 表彰

日本応用地質学会は、山口大学理学部地球圏システム科学科の応用地質学分野の人材教育に向けた取り組みに対して「日本応用地質学会表彰」を授与する旨を発表いたしました。

[https://www.jseg.or.jp/00-main/prize\\_of\\_JSEG.html](https://www.jseg.or.jp/00-main/prize_of_JSEG.html)

表彰式：令和 5 年度 日本応用地質学会 研究発表会にて

日時：2023 年 10 月 5 日(木)13 時から

場所：あきた芸術劇場ミルハス(〒010-0875 秋田県秋田市千秋明德町 2-52)



図1. 理学部地球圏システム科学科の教育システムの概要。

## 引用・注記事項

[1] 一般社団法人日本技術者教育認定機構(JABEE)：高等教育機関の技術者教育プログラムの審査・認定を行う機関である。国際的に通用する技術者の育成、それに必要な教育の質保証などの社会的ニーズを背景に、高等教育機関の技術者教育プログラムの審査・認定を行う非営利団体として、1999年11月に設立された。JABEEの地球・資源分野に認定されているのは全国で9校のみである(北海道大学、新潟大学、茨木大学、千葉大学、東京都立大学、日本大学、富山大学、島根大学、山口大学)。山口大学理学部地球圏システム科学科は2004年に認定され、以降は継続審査に合格し続けている。

[2] 一般社団法人日本地質学会の「地質系若手人材動向調査(2022年)」によると、全国の地質系大学30校の回答によると、2022年3月に学部・大学院の卒業・修了者は全国で989名であり、そのうち618名が就職者である(その他は進学)。就職者のうち専門業界(土木・建築、資源・素材、教員、研究者)が299名であった。専門業界に人材を多く輩出している大学のトップは山口大学であり、民間の専門業種(土木・建築、資源・素材)に絞ると山口大学と日本大学がトップであった。

[3] 山口大学理学部地球圏システム科学科の支援企業(2022年度分)の一覧

- |                            |                       |
|----------------------------|-----------------------|
| 1. 株式会社アーステック東洋            | 27. 大和探査技術株式会社        |
| 2. アイ総合技術株式会社              | 28. 田村ボーリング株式会社       |
| 3. 株式会社アサノ大成基礎エンジニアリング     | 29. 株式会社地圏総合コンサルタント   |
| 4. アジア航測株式会社               | 30. 株式会社地層科学研究所       |
| 5. 株式会社荒谷建設コンサルタント         | 31. 中央開発株式会社          |
| 6. 株式会社宇部建設コンサルタント         | 32. 中電技術コンサルタント株式会社   |
| 7. 宇部興産コンサルタント株式会社         | 33. 東亜建設工業株式会社        |
| 8. 株式会社宇部セントラルコンサルタント      | 34. 東興ジオテック株式会社       |
| 9. 株式会社奥村組                 | 35. 株式会社ドーコン          |
| 10. 鹿島建設株式会社               | 36. トキワコンサルタント株式会社    |
| 11. 川崎地質株式会社               | 37. 戸田建設株式会社          |
| 12. 基礎地盤コンサルタンツ株式会社        | 38. 飛島建設株式会社          |
| 13. 九州電技開発株式会社             | 39. 内海建設コンサルタント株式会社   |
| 14. 株式会社熊谷組                | 40. 株式会社日さく           |
| 15. 国土防災技術株式会社             | 41. 日鉄鉱業株式会社          |
| 16. 株式会社コスモ建設コンサルタント       | 42. 日本インシュレーション株式会社   |
| 17. サンコーコンサルタント株式会社        | 43. 日本基礎技術株式会社        |
| 18. 三洋テクノマリン株式会社           | 44. 日本工営株式会社          |
| 19. サンヨーコンサルタント株式会社        | 45. 日本地研株式会社          |
| 20. ジェイアール東海コンサルタンツ株式会社    | 46. 日本物理探査株式会社        |
| 21. 株式会社 J-POWER 設計コンサルタント | 47. 株式会社ニュージェック       |
| 22. 四国建設コンサルタント株式会社        | 48. パシフィックコンサルタンツ株式会社 |
| 23. 株式会社四電技術コンサルタント        | 49. 株式会社パスコ           |
| 24. 株式会社セイコー               | 50. 株式会社フジヤマ          |
| 25. 株式会社ソイル・ブレーン           | 51. 明治コンサルタント株式会社     |
| 26. ダイヤコンサルタント株式会社         | 52. 株式会社山口建設コンサルタント   |

令和 5 年 5 月 25 日

### 第 3 回日本応用地質学会表彰の選考結果について

一般社団法人日本応用地質学会  
会長 長田昌彦

標記について、「名誉会員選考および表彰規程」第 9 条に基づき、下記の通り決定しましたので、お知らせいたします。

#### 記

##### 1) 選考結果

5 月 24 日開催の令和 5 年度第 2 回理事会において、以下の 1 件が日本応用地質学会表彰に決定いたしました。

- ・ 山口大学理学部地球圏システム科学科  
受賞対象：応用地質学分野の人材教育に向けた取り組みに対して

##### 2) 選考理由について

「土質・地質技術者生涯教育学習協議会 GEO-Schooling Net」に加入する唯一の大学として、学生はもとより社会人を対象とした地質講習会、地質巡検を企画するとともに、自己学習管理、CPD 証明書の発行など、継続的な技術者教育への取り組みを行っている。また、「日本技術者教育認定機構 (JABEE)」に設立当初より深く関わり、地球・資源及び関連のエンジニアリング分野における教育プログラムの認定を受けるとともに、20 年を経た現在でも「地域環境科学コース」として活発に活動しており、高等教育機関における技術者育成についても継続的な取り組みを行っている。これらの成果に対し、学会表彰を贈ります。

##### 3) 表彰方法について

令和 5 年度研究発表会開催時に表彰を実施するものとします。表彰スケジュールは運営側で調整いたします。記念品として、表彰状を刻印した盾を記念品として贈呈いたします。

以上